

令和5(2023)年度 学校マネジメントシート

三重県立あけぼの学園高等学校

1 目指す姿

(1) 目指す 学校像	○「強く明るく真心で」を校訓とし、あけぼの学園高校の生徒として一人ひとりが“自信と誇り”をもち、地域に貢献し地域から信頼される学校
(2)	育みたい 生徒像
	ありたい 教職員像

2 現状認識

(1) 学校の価値を 提供する相手と そこからの要 求・期待	<p><生徒> ○わかる授業、部活動の充実、安全・安心で楽しく充実した高校生活</p> <p><家庭> ○安心して楽しく過ごすことができる学校生活、学力向上、進路実現</p> <p><中学校> ○多様な生徒の受け入れ、生徒個々への丁寧な指導と進路実現</p> <p><地域社会> ○学校・地域の連携強化、地域振興・活性化、学校の情報提供、地域の担い手育成等学校の活性化</p> <p>○基礎学力、体力、コミュニケーション能力や社会的マナーを身につけた人材の育成</p>	
(2) 連携する相手と 連携する うえでの 要望・期待	<p style="text-align: center;">連携する相手からの要望・期待</p> <p><家庭> 安全・安心な学校 基礎学力の定着、進路実現 学校の情報提供</p> <p><中学校> 丁寧で親身な指導 多様な生徒の受け入れ 生徒一人ひとりの進路実現 学校の情報提供</p> <p><地域社会> 地域の担い手育成 社会的マナーを身につけた人材育成 人権教育の充実 地域行事などへの参加と地域貢献 学校の情報提供 開かれた学校づくり コミュニケーション能力の向上</p>	<p style="text-align: center;">連携する相手への要望・期待</p> <p><家庭> 学校の指導方針への理解・協力・連携 学校行事への参加と助言</p> <p><中学校> 教育活動の相互理解 生徒同士の交流と教職員間の連携 学習習慣の涵養、基礎学力の定着 目的意識の向上</p> <p><地域社会> 地域の子どもたちの本校へ入学希望 学校行事への参加と助言 教育活動への理解と協力 本校への求人確保とその増加 インターンシップの受け入れと協力</p>

(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○地域に根ざす学校として、校外への情報発信の再開 今後は感染症の収束が一定期待できるので、地域に根ざす学校として、出前授業の再開など、校外への発信を再開する。</p> <p>○人権教育の推進 人権教育に消極的な生徒が一定数いることから、継続的な取り組みを行う。</p> <p>○職員の満足度の低下要因についての検討。 年休の消化率などの数値的な指標で評価するのではなく、質的にゆとりのある環境を創っていく。</p>
(4) 現状と課題	教育活動	<p>○教育活動の質の向上に取り組む。学習指導では ICT の活用、指導と評価の一体化、学びに向かう力や自主的な学びに繋がる授業改善等、生徒指導ではコーチングやカウンセリングの手法、キャリア教育では「探究」的な学習の進め方、プレゼン能力の向上等、一人ひとりが研修課題を設定するなど教職員一人ひとりが意識を高めて取り組む。</p> <p>○一人一台のタブレット等の ICT 機器を活用した教育活動の充実に取り組む。</p> <p>○地域課題解決型キャリア教育モデル事業で実施した昨年度までの取組を反映し、地域との交流を通して成長する姿がみられるよう活動を充実させる。</p>
	学校運営等	<p>○定時退校、部活動休養日の完全実施を目指す他、定時退校日以外でも定時で退校するよう働きかけるなど職場全体の意識改革を進めていく。</p> <p>○業務改善を推し進め、特定教職員に負担がかからないようにする。</p> <p>○分掌において ICT の活用を進め、ペーパーレス化、情報のデジタル化・共有化を図り、業務の効率化に取り組む。</p> <p>○学校や生徒の活動の様子をホームページ等を活用して発信することで学校の PR や保護者等への情報提供を密にする。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○各自の興味や目標に合わせた選択科目を配し、資格取得等への積極的なチャレンジを促し、多様な進路目標の実現を目指した学習を行う。</p> <p>○基本的な生活習慣を確立し、基礎学力を定着させることで、進路実現に必要な学力を育成する。また、コミュニケーション能力を向上させ、生徒一人ひとりの学校生活を充実させる。</p> <p>○ICT の活用を推進し、Society5.0 時代を生きるための力を身に付けさせる。</p>
学校運営等	<p>○学校の特色や独自性を十分議論し、地域連携の取り組みや情報発信を積極的に行い、地域のニーズを正確に把握した活動に取り組むことで、学校の活性化や地域貢献につなげる。</p> <p>○学校行事・分掌業務・部活動指導等について、精選や見直しを行うとともに、同僚性を発揮し、協力・協働して取り組む体制を確立することで、教育活動や学校運営を継続的に改善するための仕組みが機能し、教職員が元気にいきいきと職務を遂行することができるようにする。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果
学習指導	◇生徒の実態に即した学習指導の工夫と基礎学力の向上を図る。	
	<p>【活動指標】</p> <p>○授業公開及びテスト前補習を年 2 回実施</p> <p>○ICT を活用した授業を全教科で実施 (※)</p> <p>○生徒による授業評価アンケートを年 2 回実施 (◎)</p> <p>【成果指標】</p> <p>○「基礎力診断テスト学習評価ゾーン 1 ランクアップ」の生徒 35%以上 (R4:30.2%)</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ○「レッドカード」前年比減（R4：不認定59、未履修61） ○「学習指導に概ね満足」生徒 80%以上（R4：78.7%） 	
生徒指導	◇高校生としての身だしなみを整え、基本的な生活習慣を確立するために粘り強く取り組む。	
	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全教員による日常的な身だしなみ指導の実施（※） ○全教員による日常的な見守り（登校指導、休憩時間の校内巡視）の実施（※） ○特定の違反者への特別指導の実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○頭髪服装違反が前年比減（R4：576） ○登校遅刻が前年比減（R4：855） ○「生徒指導に概ね満足」生徒70%以上（R4：75.7%） 	
安心・安全な学校	◇心身の健康と自他ともに大切にしている態度の育成を図り、安心・安全な学校作りを進める。	
	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○心身の健康状態の把握と情報共有、教育相談の実施（※） ○命を考える講演会の実施 ○学校生活やいじめ、人権に関するアンケートを年5回以上実施（◎） <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人権アンケート「落ち着いた環境で、周りの人と協力しながら安心して生活できている」生徒90%（R4：90.1%） ○「学校生活全般に満足している生徒」生徒80%以上（R4：76.8%） ○「心身の健康指導、教育相談に概ね満足」生徒80%以上（R4：81.3%） 	
キャリア教育・進路指導の充実	◇自己の生き方を主体的に考え、資格取得や部活動に意欲的に取り組み、自己肯定感を高め、社会に貢献できる人材の育成と希望進路の実現を目指す。	
	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「産業社会と人間」「総合研究」やLHR等における「IGABITO育成事業」と連携した地域学習やフィールドワーク、インターンシップの充実（◎） ○資格取得や部活動の推奨（※） ○卒業生による進路講話、地元企業による講話の実施 ○個人面談・ガイダンス面談を年2回以上実施、3年次個別の面接指導3回以上実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「地域社会への関心が高くなった」生徒80%以上（R4：69.2%） ○資格試験、検定試験の受検者（延べ人数）（R4：341）、部活動加入率（R4：73%）前年比増 ○「希望進路が実現した」生徒100%（R4：100%） ○「進路指導に概ね満足」生徒80%以上（R4：82.8%） 	

人権教育 の充実	◇様々な人権問題に関心を持ち、人権意識を高め、主体的に行動できる人材の育成を図る。	
	【活動指標】 ○人権だより「ことだま」の発行、HRC 風への参加 (※) ○3年間を見通した人権LHRを各年次3回実施 (◎) ○生徒の実態を踏まえた人権講演会の実施 【成果指標】 ○「差別をなくすための、知識や行動をみにつけるきっかけになったと思う」「自分がしっかりと学習をしていれば、差別をなくしていけると思う」生徒80%以上 (R4:92.1%) ○「人権教育に概ね満足」生徒80%以上 (R4:82.1%)	

改善課題

- ・ 支援を必要とする生徒や外国人生徒が増加しており、それらの支援における課題が明らかとなってきている。
- ・ ICT活用が生徒の基礎学力の定着につながる取組が求められている。
- ・ 変動や不確実性など先行きが不透明な社会を生き抜く力を身につけるため、キャリア教育の充実は不可欠である。
- ・ 生徒が安心して学ぶことができ、生徒に身につけるべき力を育成するために、学校全体で取り組むことができるよう、組織の見直しや、教員のスキルアップが求められている。

(2) 学校運営等

「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果
情報発信 信頼構築	◇保護者や地域への情報発信や連携を通して、共に歩む学校として信頼構築を図る。	
	【活動指標】 ○保護者や地域への情報発信 年10回以上 (※) ○保護者や地域への公開・交流・連携事業 年10回以上 (※) (◎) ○学校ホームページの更新 月2回以上 (※) 【成果指標】 ○「学校の教育活動がよくわかる」保護者70%以上 (R4:70.2%)	
チームワ ーク・組織 力の向上	◇分掌や年次の枠を超えた協働により、教職員間の連携を強め、組織力の向上を図る。	
	【活動指標】 ○ICT、キャリア教育、学校マネジメントの各委員会を年5回以上開催 ○保健委員会を週1回開催、情報共有及び組織として対応する体制の構築 (※) ○教職員リフレッシュ講座年2回開催 (◎) 【成果指標】 ○「仕事にやりがい、楽しみを感じている」教職員70% (R4:60.1%) ○「学校経営の一翼を担っていると感じている」教職員80% (R4:68.5%)	
資質向上	◇教職員は、日頃から自己研鑽に励み、学校の課題解決に向けて他の教職員と協力・協働して取り組む。また、すべての教職員に法令遵守の意識の醸成を図る。	
	【活動指標】 ○学校信頼向上委員会の活動の推進 (※) ○教職員の資質向上のための校外研修への参加年1回以上 (※) ○校内研修会や学び合い活動の実施年3回 (◎) ○コンプライアンスアンケート、コンプライアンスミーティング年3回	

	<p>実施</p> <p>【成果指標】</p> <p>○「ハラスメントを許さない職場である」と感じる教職員80% (R4:60.2%)</p>	
組織運営 働き方改革	<p>◇各分掌の業務の見直し、削減に取り組み、教職員のワーク・ライフ・バランス改善の取組を推進し、総勤務時間の縮減に取り組む。</p>	
	<p>【活動指標】</p> <p>○各分掌の業務の洗い出しと分担の見直し (※)</p> <p>○定時退校日を月1回設定、実施率100% (R4:100%) (※) (◎)</p> <p>○部活動の休養日を週1回設定、実施率100% (R4:100%) (※)</p> <p>○放課後に開催する定例会議は60分以内設定、実施率100% (R4:100%)</p> <p>【成果指標】</p> <p>○年休取得日数、一人16日以上/年 (R4:13.2日)</p> <p>○時間外労働時間、一人平均7時間以内/月 (R4:9.4時間)</p> <p>○月45時間超、年間360時間超の時間外労働者 0人 (◎) (R4:0人)</p>	

改善課題

- ・年次や各系列による特色ある取り組みを、保護者をはじめ多くの方に知っていただけるよう更なる情報発信が求められている。
- ・学校の取組の様子を理解いただくことで、学校に対する信頼や期待も高まることが予想される。
- ・魅力ある学校づくりに、教職員の満足度や達成感の向上が不可欠である。
- ・多様化する教育課題に対し、必要な現職教育を充実させるとともに、ワークライフバランスの改善に努める必要がある。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動 について の改善策</p>	
<p>学校運営 について の改善策</p>	